

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年 8月23日

【評価実施概要】

事業所番号	1070401219
法人名	有限会社ツインバード
事業所名	グループホーム「花風」
所在地	伊勢崎市境上瀬名968-1 (電 話) 0270-70-2301
評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年8月11日

【情報提供票より】(平成21年7月27日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成19年9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 5人, 非常勤 5人, 常勤換算 6.8人	

(2)建物概要

建物構造	鉄鋼系組立構造		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費(月額500円)
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	1日1,000円		

(4)利用者の概要(7月 27日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低 72 歳	最高 102 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	斉藤内科医院、多賀谷歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

名前の由来は、花が咲いて風がそよそよと吹く、ゆったりとし安らげる環境をイメージし命名されている。職員は、一人ひとりの気持ちや生き方を尊敬・尊重するケアの実現に日々取り組んでいる。また、主治医との連携により、入居者や家族が安心して生活できるように、24時間対応可能な医療体制を整えている。日々の生活では、職員が2名の入居者を担当し、より細かなケアを行い、月次報告書を作成し1ヶ月の状況を家族に報告している。地域との交流が大事と考えており、「花風だより」の配布、区長への積極的な働きかけ、地域の運動会等行事への参加・交流に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価を受けて、改善シートを利用し、カンファレンス等で改善にむけての話し合いがされ、具体的な改善目標を立てている。災害対策では、隣組長を訪問したり、近隣への協力依頼を行っている。運営推進会議を活かした取り組みでは、家族会を作っていく目標で、家族と食事に行ったり、桜を見に行ったり、徐々に働きかけをしている。居心地のよい共用空間作りは、現在検討中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、管理者が1人で考え記入している。管理者だけでなく、職員も討議に参加したり、意見を出し合って、職員全員で取り組まれることを期待したい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1度の会議では、民生委員、老人会長、区長、市の担当者、入居者、入居者家族等が参加し、ホームの近況報告や外部評価結果等が話し合われている。近隣との関わりを強くする方法についてアドバイスをいただいたり、ホーム側から地域のミニデイサービスへの協力を申し出たりと意見交換がされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に苦情箱を設置し、重要事項説明書に苦情相談先が複数明記されている。また、面接時や運営推進会議の際にも積極的に声をかけをし、意見・苦情等をお聞きできるようにしている。「ホーム前の公道の草刈りをしてほしい」、「部屋の中の物を整理してほしい」などの意見がだされ、運営に反映している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩時の挨拶、隣組や運動会等地域行事への参加、区長への積極的な働きかけなど、地域との交流・協力が図れるように努力している。また、「花風だより」を地域へ配布し、ホーム見学に来ていただけるように声をかけをしている。

2. 評価報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとりの気持ちや生き方を尊重した理念を見直し、地域の人たちと交流を図りつつ自分らしく穏やかに暮らしていくことを追加した理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの壁に、理念を大きくわかりやすく掲示している。改めて職員同士で話し合うことは少ないが、職員全員が理念を理解し、理念の実践にむけて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「花風だより」の配布、区長への働きかけ、行事への参加等、地域との交流に努めている。最近では地区のボランティアが来てくれるようになっている。自治会に入り、地域の入居者は老人会に加入しているが、行事への参加を望んでおらず、他の入居者は老人会行事への参加を許可されているが、地域外のためおみやげ等がもらえないので参加を躊躇している。	○	今後、地域の道路清掃や草むしりなどの参加を通じて、小さな交流から少しずつホームが地域の中に溶け込むことを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価を受けて、改善シートを利用しカンファレンス等で話し合いが行われ、具体的な改善目標を立て改善に向けて取り組んでいる。また、管理者、職員とも自己評価の意義は理解されている。しかし自己評価については、管理者が1人で記入し、職員の意見を聞いていない。	○	自己評価は管理者だけでなく職員も討議に参加したり、意見を出し合って、職員全員で取組まれることを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の会議では、民生委員、老人会長、区長、市の担当者、入居者、入居者家族等が参加し、ホームの近況報告、外部評価結果等を伝えている。また、近隣との関わりを強くする方法についてアドバイスをいただいたり、ホーム側から地域のミニデイサービスへの手伝いを申し出たり、意見交換が行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	近辺の空地で草を燃やしてぼやが発生した時や運営推進会議への出席依頼方法等で困った時に、市の担当者に相談している。また、ホームで作成した「花風だより」を持参し置いてもらったり、交流研修の打診をしたり、連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月次報告書(援助方針、目標、実施内容、医療連携、行事報告等)を、入居者の担当職員が毎月作成し、訪問時に渡したり郵送して1ヶ月の様子が家族にわかるようにし、サインをいただいている。また、状況等に変化があった場合は、その都度報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置し、重要事項説明書には苦情相談先が複数明記されている。また、面会時や運営推進会議の際も積極的に声をかけをし、意見を引き出す努力をしている。「ホーム前の公道の草刈りをしてほしい」、「部屋の中の物を片付けてほしい」などの意見が出され、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この数年間、離職者はいない。同系列事業所の施設長が毎朝申し送り時に来て、管理者や職員の相談にのるなど、離職を最小限に抑える努力をしている。以前より、職員が辞める時は入居者に理由を説明し、入職の際も挨拶をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症基礎研修、実践者研修、リスクマネジメント研修等の外部研修に参加している。法人内の研修は、今年度計画が立てられていない。	○	法人内研修を計画・開催し、一人ひとりのスキルアップを図りサービスの質の向上へと役立てられることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に参加しており、職員のレベルアップ(交換研修)研修がまもなく南部ブロックで行われる。また、秋には近隣の3つのホームで合同運動会が実施される予定である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人、家族に見学にきていただき、本人の思いや生活状況、生活習慣等を聞き、入居後も継続した生活に近づけるよう支援することを伝え、本人が納得した上で入居をしていただいている。認知症が進んでいる入居者の場合は、家族と相談しながら、入居者が場の雰囲気に馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	折り紙、洗濯物たたみ、お手玉等を入居者と一緒に言い、職員と入居者の会話の機会を多くとっている。箸の持ち方など礼儀作法を入居者から教わることも多く、また、職員は「こういう時にはどういうふうにするのですか」と入居者の意見をよく聞いており、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、生活歴を聞いている。「仕事がないので帰らせてください」と言う帰宅願望の強い入居者は、朝から晩まで働き尽くめの人だったと判明するなど、生活歴から利用者の思いを把握するようにしている。日常的には本人にその都度思いや意向を聞き、困難な場合は目配り、気配りをして、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護支援専門員が、家族、本人から聞き取りを行い、担当職員の意見も聞きながら、介護計画を作成している。作成されたプランはケアカンファレンスで検討し、内容を家族に提示し確認してもらいサインをいただいている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、職員の月例会で、介護支援専門員も参加してケアカンファレンスを行い、一人ひとりの状況について検討し、評価を行っている。介護計画の見直しは、3ヶ月で見直しをしている。なお、状態に変化があった場合には、その都度見直しをしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の個人的な買物や受診等の送迎をしている。医療面では医療連携体制加算を算定しているので、看護師が状態の急変時の対応や相談等主治医と連絡を密に取っている。また、医師の指示にて白癬等簡単な処置は看護師が行い、受診の回避を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の希望は聞いているが、協力医が24時間対応してくれるので、ほとんどの入居者が協力医を主治医としている。月2回の訪問診察、夜間の急な往診、急変時のアドバイスなど適切な対応がなされている。また、職員の看護師が、服薬面や健康面での支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けたホームの方針は、重要事項説明書に記載されている。ターミナルケアは、基本的に行っていない。ただし、本人、家族の希望が出された場合は、主治医と話し合い検討している。実際、末期癌の入居者を亡くなる前日まで介護したことがある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないように、食後のトイレ誘導はさりげなく、他者には気づかれないうえである。また、記録等、個人情報については、事務室の鍵のかかる場所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の過ごし方について、入居者本人に単刀直入に聞いていないが、本人に確認をしながら、その方のペースで過せるように支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、入居者の希望も入れながら立てている。一人ひとりの力を活かしながら、テーブル拭き、片付け、食器洗いなどを、入居者と一緒に行っている。職員一名は、検食のため同じテーブルにつき声かけしながら一緒に食事をしている。また、時には回転寿司等外食を楽しむこともある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日を除いて毎日入浴できる体制をとり、週に2回は午前中に入浴していただいている。生活習慣にあわせて夜間入浴をしている入居者もいる。入浴を拒否する場合には、翌日に入っていただくなど声かけをしている。入浴時に一緒に歌ったり、入浴剤を入れたり、季節感を取り入れた柚子湯したり、楽しめるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、ドリル、編み物、塗り絵など、今までの生活の中にあった楽しみや趣味・習慣が活かされるよう支援している。また、経済新聞やスポーツ新聞を読まれる入居者や算数ドリルをして楽しまれる入居者もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は、入居者2名を受け持っている。筆筒の整理や入居者の日用品の買物など、入居者と一緒に行っている。洋服、靴、嗜好品等の購入の際には、入居者が代金を支払う場面を作っている。また、日常的に散歩にも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないようにしている。帰宅願望の強い入居者がいるので、その際は玄関に鍵をかけることもあるが、基本的には夜間のみの施錠になっている。以前、徘徊等無断で外出された入居者については、近隣の方から連絡をいただくなど近隣との関係ができている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、入居者も参加した避難訓練を実施し、1回は消防署の指導を受けている。夜間想定訓練は行っていない。災害時、近隣の方への協力依頼を行っている。	○	夜間を想定した避難訓練を行うことで、より安全対策が図れることを期待したい。また、入居者の避難には人手が必要であるため、災害時、地域住民の協力が得られるよう継続した働きかけを行っていくことを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、主食、副食と毎食後記録している。水分摂取量は、少ない人のみ記録している。栄養バランスは、栄養師等専門職による評価は行われていない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂は丁度よい室温設定で臭いもなく、空調管理が出来ている。壁には外出時の写真が貼られている。前回の外部評価で指摘された共用空間にある量の部屋の有効利用については、現在検討中である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人の使い慣れた箆笥やテレビ等が持ち込まれたり、位牌を持ってきている入居者もいる。外出時の写真やホームで作った作品なども飾られて、居心地よく過ごせるような工夫がされている。		